

グローバルリーダーの資質を養う

氏名：東郷 尚子

学校名：学校法人新庄学園 新庄東高等学校

担当教科：地理・歴史

実践教科：総合的な学習の時間

時間数：7 時間

対象学年：1 年生

人数：11 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

積極的に世界と関わる姿勢を養う。

世界を視野に入れた考え方ができる生徒を育てたい。この世界で、自由に、堂々と生きていって欲しい。時間を超えてすべての人とこの世界を共有している意識を失うことなく、世界へ積極的に関わろうとする姿勢を養う。

生徒が、自身の進路選択の幅を広げ、選択する力につなげる。

【2】 単元の 評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度

授業内容に関心をもって参加している。

(イ) 思考・判断・表現

想像力を働かせながら当事者として思考する。

(ウ) 技能

考えを共有し、よりよいアイデアを再構築できる。

(エ) 知識・理解

諸課題の背景を理解するうえで必要な知識と情報を得ている。

【3】

単元設定の理由
(児童/生徒観、
教材観、指導観)

生徒観

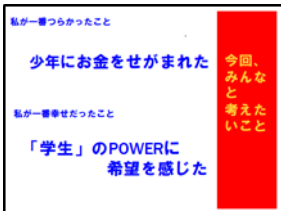
対象生徒が所属するコースは、「大学進学に向けた多様な学習活動を通して、未来のグローバルリーダーを育成」という教育理念を掲げており、生徒たちもそれを理解し共感している。海外研修経験がある生徒もあり、SDGsについても調べ学習の経験がある。少人数クラスであるため、互いを尊重し、受け入れ合いながら、今後はさらに「支え合い、学び合う」ことを意識してもらいたいと期待している。

教材観

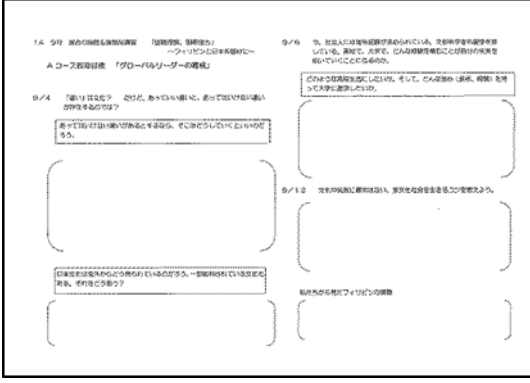
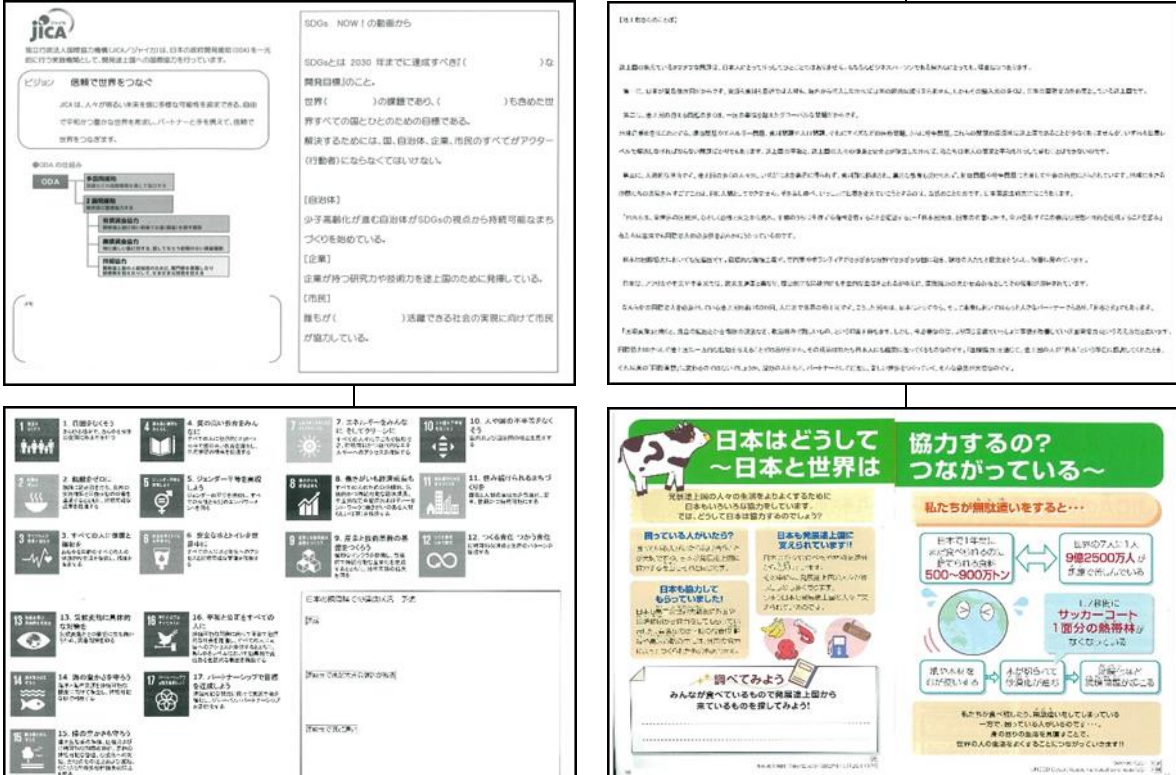
日本とフィリピンを題材として、どれだけ当事者として考えることができるか、また同時に客観的に自分たちを捉えることができるかを重視した。教材となる資料や写真に対しても必ず、双方向の視点に触れるように努めた。

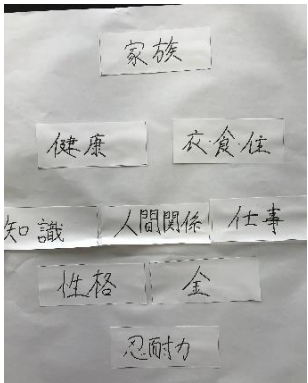
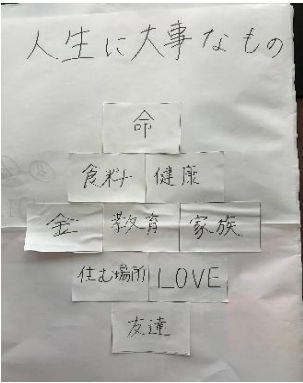
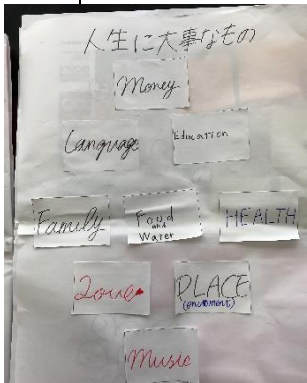
指導観

2 学期からの、大学進学に向けた活動のスタートとして、9 月の総合の時間を国際社会に目

	を向ける時間とした。コースの先輩がフィリピン・セブに英語研修に行っており、コースポスターに写真が使われているなど、生徒たちにとっては、フィリピンは外国の中でも近い存在の国といえる。そこを生かしつつ、生徒自身に、多文化社会で生きていくうえで大切なことは何かを考えてもらう内容にした。		
【4】展開計画（全 7 時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「 フィリピンに行ってきました! 」 先生の体験を通して 知る 考える 触れる 	対象：1～3年のコース生（35人） ①教員研修に参加した私（先生）のねらいを伝える ②セブ英語研修経験のある3年生との思い出話を聞かせる ③フィリピンクイズ ④生徒たちが持つ途上国のイメージとは異なりそうな写真を見せる ⑤私（先生）の個人的な思い出を通して「みんなだったらどうする? 」と問いかけ、意見交換 ⑥お土産とフェアトレード商品の紹介  	写真 動画 フェアトレード商品 お土産のお菓子  パワーポイントの一部

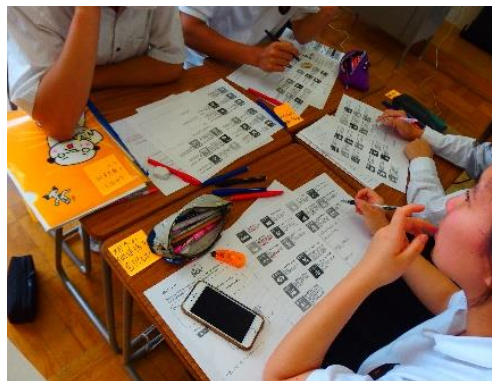
2	「 ちがいは文化？ 」 異文化を理解するとは どんなことなのかを 考える	①私（先生）の印象を通して、フィリピン の特徴をつかむ ②あっていいちがいが、あってはいけないと 思うちがいを判断してみる（前年度の先 生のものを借用） ③自分と全く同じ考えの人を探す → 考えや価値観や感覚は多様である ことを実感 ④海外から見た日本文化で批判・非難され ているものを調べる ⑤あっていいちがいとあってはいけない ちがいの「ちがい」について考える ⑥自分たちの常識を疑ってみることの大 切さを言葉にする このちがいは、 あっていいちがいがいい？ あってはいけないちがいがいい？ このちがいは、 何のちがいがいい？ <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>あっていい ちがいがいい</th><th>あってはいけない ちがいがいい</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本では子どもは学校に行く。 フィリピンでは学校へ行かず、おうち の手伝いや働いたりする子もいる。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本の水道水は飲むことができる。 フィリピンの水道水は飲むことがで きない。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本では乗り物の定員が決まってい る。 フィリピンでは定員は決まっていな い。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本では銃を持つことはできない。 フィリピンでは銃を持つことができ る。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本は箸を使い、茶碗をもって食事す る。 フィリピンではスプーンとフォーク で食事する。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本には死刑制度がある。 フィリピンには死刑制度はない。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本の子供は全員教育を受ける。 フィリピンの子供は教育を受けない 子もいる。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>日本は教会にも寺にも神社にも行く。 フィリピンは熱心なカトリック国で ある。</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> あなたがなくしたいちがいはどれですか？		あっていい ちがいがいい	あってはいけない ちがいがいい	わからない	日本では子どもは学校に行く。 フィリピンでは学校へ行かず、おうち の手伝いや働いたりする子もいる。				日本の水道水は飲むことができる。 フィリピンの水道水は飲むことがで きない。				日本では乗り物の定員が決まってい る。 フィリピンでは定員は決まっていな い。				日本では銃を持つことはできない。 フィリピンでは銃を持つことができ る。				日本は箸を使い、茶碗をもって食事す る。 フィリピンではスプーンとフォーク で食事する。				日本には死刑制度がある。 フィリピンには死刑制度はない。				日本の子供は全員教育を受ける。 フィリピンの子供は教育を受けない 子もいる。				日本は教会にも寺にも神社にも行く。 フィリピンは熱心なカトリック国で ある。				写真 ワークシート パワーポイントの一部
	あっていい ちがいがいい	あってはいけない ちがいがいい	わからない																																				
日本では子どもは学校に行く。 フィリピンでは学校へ行かず、おうち の手伝いや働いたりする子もいる。																																							
日本の水道水は飲むことができる。 フィリピンの水道水は飲むことがで きない。																																							
日本では乗り物の定員が決まってい る。 フィリピンでは定員は決まっていな い。																																							
日本では銃を持つことはできない。 フィリピンでは銃を持つことができ る。																																							
日本は箸を使い、茶碗をもって食事す る。 フィリピンではスプーンとフォーク で食事する。																																							
日本には死刑制度がある。 フィリピンには死刑制度はない。																																							
日本の子供は全員教育を受ける。 フィリピンの子供は教育を受けない 子もいる。																																							
日本は教会にも寺にも神社にも行く。 フィリピンは熱心なカトリック国で ある。																																							
3	「 自分の強みを何にした い？ それが、進路選択 」 自己理解を深める	①フィリピンで出会った会社員、青年海外 協力隊員、インターンの大学生の存在を 紹介、文科省のトビタテ留学 JAPAN の ねらいを伝える ②海外経験が求められている事実から、自 身を振り返る ③高校生活で意識して付けたい力や経験 を発表する	写真 文科省 HP																																				

4	前半の振り返り 「 多文化世界を生きる コツ 」 コミュニケーション について考える	①ワークシートに記入し、生徒間で読み合 いをする ギャラリーウォーク ②次回の導入としてフィリピンの課題（貧 富の差、地方と都市の格差）を写真から 読み取る フォトランゲージ 	写真 ワークシート
5	「 世界の中の日本 互いに支え合う世界 」 支え合い、 学び合う①	①フィリピンで見つけた「日本」（JICA の 支援、日本語を話す高校生）を紹介 ②ODA や JICA 事業について学習 ③日本も世界に助けられていることにつ いて話し合い、世界は互いに支え合っ ていることを理解する ④SDGs の動画（3分） ⑤日本の SDGs 達成状況を推測する	写真 外務省 HP 動画 ワークシート 読み物資料 

6 本時	「 世界の中の日本 互いに支え合う世界 」 支え合い、 学び合う②	①日本の SDGs 達成状況の答え合わせ JICA 地球ひろば企画動画（3分） ②フィリピンの課題と SDGs を関連付ける →青年海外協力隊の2人、研修訪問先である NPO 法人アイキャンの活動、NGO LOOB の教育サポートやフェアトレード商品はどここの解決につながっていくかを話し合う ③フィリピンで聞いた言葉を紹介しその意味を考える ④支え合い、学び合うとは何かを考える 協力隊の方のメッセージ動画（4分） ⑤フィリピンの強みを紹介 動画（1分）	写真 動画 ワークシート ユニセフ動画 フェアトレード商品
7	「 人生に大切なもの 」 支え合い、 学び合う③ 	①人生における大切なものをダイヤモンドランキングにする  ②フィリピンの女子高生の結果を伝える  ③フィリピンスマイルとクラスの写真を織り交ぜるスライドショー ④一人ずつ振り返り発表（A3用紙2枚を使って自由にプレゼンテーション）	写真 動画 

【5】 本時の展開			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5 分)	日本の SDGs 達成状況答え合わせ 「つまりこれはどういうことだろう」	日本を客観的に捉える。 SDGs は世界共通の課題であり、世界中が助け合い、支え合わないといけないことに気づかせる。 生徒に感想を聞く。	動画
展開① (15 分)	青年海外協力隊員、認定 NPO 法人アイキャン、NGO LOOB の活動の一部を紹介 ↓ その取り組みが SDGs のどこに 対するアプローチになるのか を考える 共通することを確認	個人からグループ活動へ。 他のグループの結果を確認。 どの活動も現地の人との協力が不可欠であることに気づく。	パワーポイント 写真 フェアトレード商品 模造紙 ポストイット
展開② (15 分)	「一方的な支援にならないようにしている」 「日本が後悔していることを伝えたい」(NGO LOOB) 言葉の意味を考える	グループごとに発表。	
まとめ① (10 分)	「支え合い、学び合う」とは何かを考える 青年海外協力隊員のメッセージ 動画	4 時間目に実施した多文化の中で生きるコツを振り返らせる。	動画
まとめ② (3 分)	私がフィリピンから学んだこと 小学生のインタビュー動画 「Are you Happy now?」	フィリピンの強み、魅力を知る。	動画

【授業実践の様子】



グループワークでそれぞれの団体と
SDG s の目標につなげている

【6】 本時の評価

2時間連続の授業としたが、次々にやることを用意してしまい、活動を盛り込みすぎてしまった。生徒たちの意見や考えをうまく引き出せなかった。しかし、生徒たちは一生懸命考え、何かを見つけようとしてくれていた様子は非常に頼もしく嬉しかった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

《授業の感想》

今まで国際理解の学習をして、世界について少しでも多く知れて良かったと思いました。発展途上国と聞いても、日本とはあまりつながりがないだろうなと思っていましたが、実際はすごく関わりが深いんだということに関心をもちました。フィリピンの子と違って「Are you happy now?」と聞くと「Yes!」と即答できることは日本人には足りない強みだと思いました。この学習を始めると幸せ、豊かさとは、お金があってやりたいことはなんでもできるくらいだと思っていました。家族がいることや、必要最低限の生活ができることだけで幸せだと教育が受けれるなんてとても幸せだと思っていたと思います。



《授業の感想》

授業を通してフィリピンの子と日本の子との価値観の違いがはっきり分かりました。その中でも生きていくために大切なものや一番幸せな時間といった時にフィリピンの子と私たちは「家族」と答えることや、「Are you happy?」ときかれた時に、「Yes!」と即答できることに感心しました。私は幸せですかと聞かれてもすぐに幸せだと答えることができないと思います。それは、自分の不幸な部分を無意識に隠しているのだとも思います。なので、自分の幸せ、豊かだと思える部分を探して、幸せだと学ばせる人になりたいと感じました。

《授業の感想》

高校1年生になつてからたくさん海外について学びたいなことを考えさせられました。特に幸せの概念についてです。貧困の国は日本と比べればお金も食べる物も少ないかも知れない。でもそんなことが幸せの全てなのではなく、どれだけ幸せを感じられるかが一番大切だということも学びました。多文化社会で生きている私達には異文化を理解し合い、助け合って生活していくと思いました。私は常に「世界で生きている」という自覚を忘れないでいきたいと思います。そして、日常の中にたくさん幸せを感じて生きていきたいです。次に私が「Are you happy?」と聞かれたら「Yes!」と答えたいと思います。

《授業の感想》

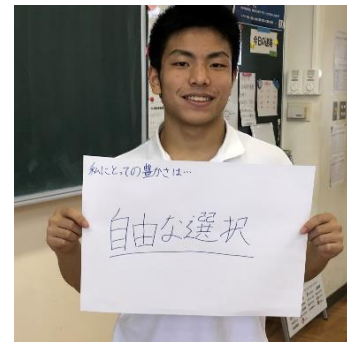
今まで日本という国がどうなっているかわからなかったけど、この授業を受けて感じた事がたくさんありました。まずは価値観だけでなくその国の人の雰囲気が全然違ってくることに驚きました。自分がいままで知らなかった日本のNPOやNGO、JICAなどのあやうで和連。国、日本がどんなにうけいれられていることは、国民の和連もその状況、情報を入れし、全員で解決しようとする気持ちがいかに大切かと思いました。発展途上国だけが幸せというのを感じられないだけでなく、その人の価値観、そして豊かで幸せをたくさん感じられると思います。あなたには幸せですか?と聞かれた時、私もこの日本に生まれて16歳まで生きていることを前感謝、思いやり「幸せ」という言葉を分けたいと思います。

総合の時間 国際理解

氏名 横山 光輝

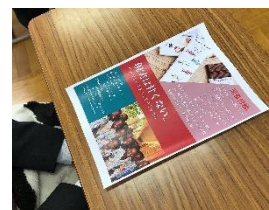
《授業の感想》

自分の見ていた世界の狭さを知ることができ、その世界の常識は捉えられてはいけなさと感じた。自分の中の価値観のみで物事を判断し、異なる文化を持つ人に接するのではなく、相手の文化を受け入れて理解していきこうと、この授業を通して考えた。



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

国際社会に対する関心が高まったのを感じる。また、関心のある課題に対しての探究活動を展開しようとしている生徒も出てきた。また、国際協力の仕事をしていきたいと大学の選択を見直す生徒も出てきた。非常に嬉しく思う。生徒には多くの選択肢の中から自分の「人生」を選んでいくことを大切にしてもらいたい。



ある生徒の探究活動のイベントのチラシ

【途上国・異文化への意識の変容】

途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の変容

氏名 土田 莉乃
授業前 途上国＝貧国＝幸せが少ない、幸せより苦勞？
↓
授業後 家族への愛が大きい。それは大きな幸せを感じられる、とても素晴らしい国。見習わなければならぬことをたくさん学べることであった。自分たちのものさしで、相手と比べない。

途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の変容

氏名 千葉 美羽
授業前 ⑤ 途上国は大変、危険な国 異文化に嫌悪感を抱いていた。
↓
授業後 ⑤ 大変かもしれないけど、幸せを感じている人はいる。そういう文化もあると割り切れるようになった。
(結構好きだし)

途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の変容

氏名 丹 優希
授業前 途上国と日本はそんなに関係ないかと思ってた。
→ 日本はたくさん支援することに関心をもった。
(鉄道、空港、建物など)
↓
授業後 SDGsの達成がどれだけ大切かわかった。
異文化で当たり前という考えで終わっていたけど、異文化を持っているからこそ他国の文化に触れたいと思った。

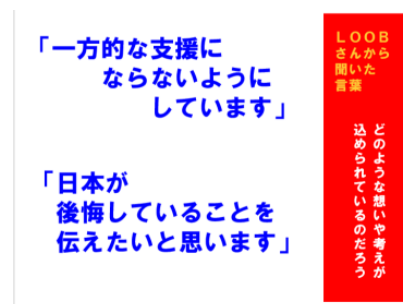
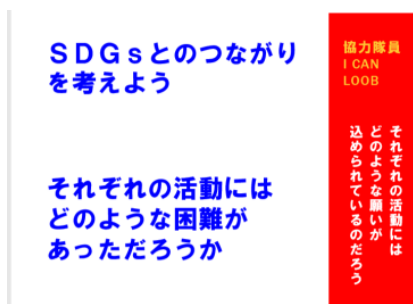
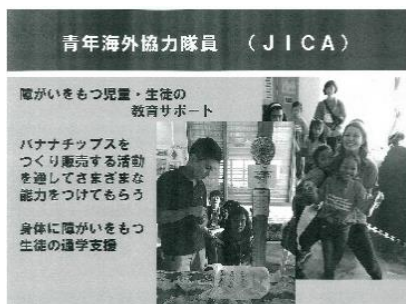
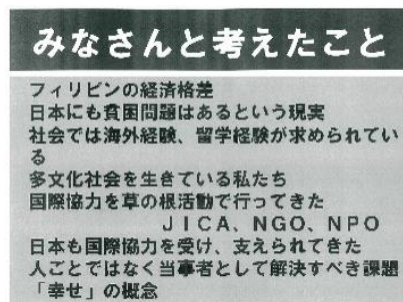
途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の変容

氏名 有藤 まゆみ
授業前 途上国は全てが貧しいと思っていた。
辛い思いをしていると思った。
↓
授業後 一部が豊かでいて、貧しい人はとても貧しい。
でも、幸せだと言う人が多い。自分の心が一番貧しいのではないかと思った。

途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の寛容 氏名 塚本 輝 授業前 途上国について、自分の想像のままであった。 ↓ 授業後 途上国の価値観をより深く理解することができた。	
途上国・異文化に対するイメージや見方、考え方への授業前後の寛容 氏名 高橋 ともみ 授業前 途上国が途上国は多様すぎる。 ↓ 授業後 途上国は途上国は多様な価値観がある。 授業前 途上国は途上国は多様な価値観がある。 ↓ 授業後 途上国は途上国は多様な価値観がある。	

【8】 自己評価	
苦勞した点	生徒に関心を持ってもらうための工夫、身近な問題として考えてもらうための工夫、感情を揺さぶる工夫に苦勞した。共に研修に参加した先生方からアドバイスやヒントをたくさん頂いた。研修前に授業案を考えたときと、研修後に改めて授業案を考えたときでは大きく内容が変わった。さらに、授業実践直前にテーマを変えるなど、最後の最後まで生徒と一緒に何を考えたいかを絞れなかった。
改善点	本時に関しては、内容を盛り込みすぎた。もっとゆっくり考えて、考えたことを共有する時間を取るべきだった。教員（私）が勝手に焦っていたように思う。そして、生徒が考えたり、気づいたことを、さらに深めたり行動に表すような企画を考えておくことで1回だけの「イベント授業」にならないようにしたい。
成果が出た点	「国際理解」のテーマでの学習や意見交換を定期的に行っていることで、生徒の視野は広がっている。地球規模の課題について考えることの意義を感じている。また、JICA の活動にも関心を持つ生徒が増え、イベント等にも参加する生徒が増えたように思う。
備考（授業者による自由記述）	今後は生徒間（先輩後輩や、他校の生徒）の学び合いを重視した機会を多く設けたい。教師としては、授業という枠を超えて、より柔軟に課外活動としてもこの研修の成果を発揮していきたい。私が研修に参加して最も良かったと思うことは、自分自身の教師としての目標を立て直すことができたことだ。教育の現場で求められる、答えのない問いに臨み続ける姿勢を手に入れることができたように思う。

添付資料： 本時で使用したパワーポイント（抜粋）



参考資料：

2017 年度教師海外研修報告書

JICA ホームページ